

九州大学医学部保健学科

栢 森 裕 三*

I. 保健学科の沿革

九州大学医学部保健学科は、大学病院・歯学部・薬学部等と同じ敷地内にあり、近くに県庁や福岡県警のある馬出(まいだし)地区に位置しています。

本学科は、明治36年(1903)の京都帝国大学福岡医科大学附属医院看護婦養成科設置に遡る歴史があります。昭和46年(1971)には九州大学医学部附属の看護学校、診療エックス線技師学校、衛生検査技師学校を統合化して九州大学医療技術短期大学部を設置し、平成14年(2002)には看護学専攻、放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻の3専攻を持つ医学部保健学科へと改組しました。これまで百年以上にわたり、多くの優れた医療従事者を社会に輩出しており、さらに平成19年には大学院修士課程、平成21年には博士後期課程を設置し、保健学分野の研究・教育を担う優秀な人材の育成へと歩みを進めています。

II. 教育・人材育成の目標

九州大学の教育憲章では、教育の目的を「日本の様々な分野における指導的役割を果たし、アジアをはじめ広く全世界で活躍する人材を輩出し、日本及び世界の発展に貢献すること」としています。保健学科検査技術科学専攻においてもアジア諸国と連携し、世界における保健学領域の教育・研究の拠点と成り、保健学の発展と人類の健康と



馬出地区(病院地区) 配置図



保健学科本館改築 予想図

*保健学科 kayamori@med.kyushu-u.ac.jp

福祉の向上に寄与することを目指し、以下の人材育成の目標を掲げています。

1. 豊かな人間性を備えた人材
2. 高度化する医療に対応できる人材
3. 全人的チーム医療に対応できる人材
4. 高齢社会の医療に対応できる人材
5. 医療の情報化に対応できる人材
6. 教育者・研究者へと発展可能な人材
7. 国際医療の場で活躍できる人材

さらに、大学院教育においてはこれらに加え、創造性豊かな優れた研究・開発を独立して行う能力を有する教育者・研究者、保健学分野の実務領域における実践的指導者や組織リーダーの養成を通して、わが国のみならずグローバルに活躍できる人材の育成を目標としています。

III. 求める学生像

1. 学部学生

- ・自ら医療における諸問題を発見し、これらを解決するための課題を設定し、その深い解明をめざして学習しようとする自主性がある人。
- ・医系だけでなく、広い分野の学習を進めながら関心の幅を広げ、総合的な探求の能力を高めることによって、自らの能力を最大限に発揮して行こうとする意欲がある人。
- ・様々な分野を学びたいという積極的な意欲がある人。

- ・学問を深く学ぶために、必要な基礎的能力を身につける努力をいとわず、積極的に学習を進めることができる意欲や能力がある人。
- ・海外での医療活動ができるにふさわしい語学力を身につけることに意欲がある人。
- ・幅広い人間性と高い倫理観を持ち、生命の尊厳や病む人の心を理解する深い感性を有する人

2. 大学院学生

修士課程においては、

- ・保健学専攻の教育を受けるための基礎学力を持ち、修士課程においてより深い専門性と論理的思考方法を習得し、その成果を地域及び国際社会の健康増進に貢献する意欲のある人
- ・保健学に対する強い興味と本質への高い追求意欲を持ち、主体的勉学と自己啓発に積極的である人

博士課程においては、

- ・修士課程を修了し、将来、保健学系大学における教育者・研究者となり、国民の健康増進に寄与する強い意志のある人
- ・科学的知識や方法論を学び、高度先進技術を修得し、保健・医療・福祉分野において、研究マインドを持った実践的指導者として国民の健康増進に寄与する強い意志のある人



臨床化学研究室スタッフ

IV. 研究教育体制

検査技術科学専攻は、生体情報学分野および病態情報学分野の2つの分野から構成されています。各分野には、それぞれの学界において中心的に活躍中の教授陣が揃っており充実した教育研究が展開されています。

1. 生体情報学分野

生体情報学領域では、生体機能を維持するメカニズムの解析や、診療に有用な情報を臨床に提供するための検査法・検査技術、先端的検査機器により得られた生体情報の処理などについて教育・研究を行っています。さらに寄生虫・病原微生物およびそれによって引き起こされる病態の解析、あるいは国際感染症や新興再興感染症についても教育・研究を行っています。

2. 病態情報学分野

病態情報学領域には、病理細胞検査学、血液免

疫病態検査学、代謝病態検査学の各分野があり、疾病の病態解析に役立つ検査技術、診断法を教育・研究しています。すなわち、生体機能に関わるホルモンの解析技術、造血機構の形態学的・細胞生物学的解析法、免疫異常の解析、病理細胞診断法などの教育・研究を行っています。

おわりに

医療技術短期大学部から続く検査技師教育が保健学科に引き継がれて10余年が経過しています。その間に社会に巣立っていった学生たちが全国の医療機関で中堅クラスに育ってきています。

また、保健学科の建屋も約50年ぶりにリニューアルされ、平成27年4月から利用される予定です。これまでの教育実績に加え、将来の検査技術の進歩に対応する教育に向け、新たな気持ちのスタートとなります。